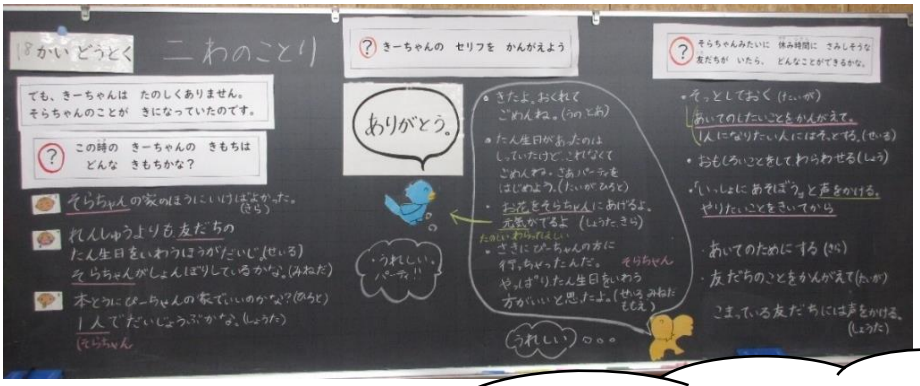
道徳だより

なかふじルームで取り組んでいる道徳教育について紹介します。

「二わのことり」という物語をとおして友だちとのかかわり方について考えました。



８枚の表情カードを使って主人公の気持ちを考えたり、グループで話し合いをして、話し合ったことをロールプレイで発表したりしました。

物語を読みながら登場人物の気持ちを考えた後は、実際の自分の生活にもつなげて、『もし、休み時間にさみしそうにしている子がいたら、どんなことができるかな』と考えました。

●そっとしておいたり、友だちのことを考えたりする。(T)
●絵を描きたいとか本読みたいとか相手のしたいことを考えて、一人になりたい人にはそっとする。(SR)
●おもしろいことをして笑わせる。(SU)
●やりたいことを聞いてから「いっしょにあそぼう」と声をかける。(SR)
●相手のためにする。(K)
●困っている友だちには声をかける。(ST)

最後には、私たち教員がなかふじルームで見つけた「友だちのことを考えた行動」を写真を使って紹介しました。自分の写真が写るのかワクワクしていた子どもたち。友だちの良い行動を知り、授業を終えてから、その行動を真似しようとする子が増えています＾＾

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

1年生では，道徳の授業でわがままについて考えました

「かぼちゃのつる」

友達の注意に耳を貸さず、自分のことだけを考えてぐんぐんとつるを伸ばしたかぼちゃが、最後には走ってきたトラックにつるを切られてしまう、というお話です。

わがままをすると痛い目に合うよ…ということではなく、わがままをすると周りの人や自分が困ることにつながることに気付き、みんながにこにこで生活するためには、自分のことだけではなく周りの人のことも考えて生活することの大切さを考えてほしいなと思い、授業をしました。

〈児童の発言や感想〉

●かぼちゃさんは、道路やほかの畑にいかないで、自分の畑だけで伸びていたらよかったのにな。

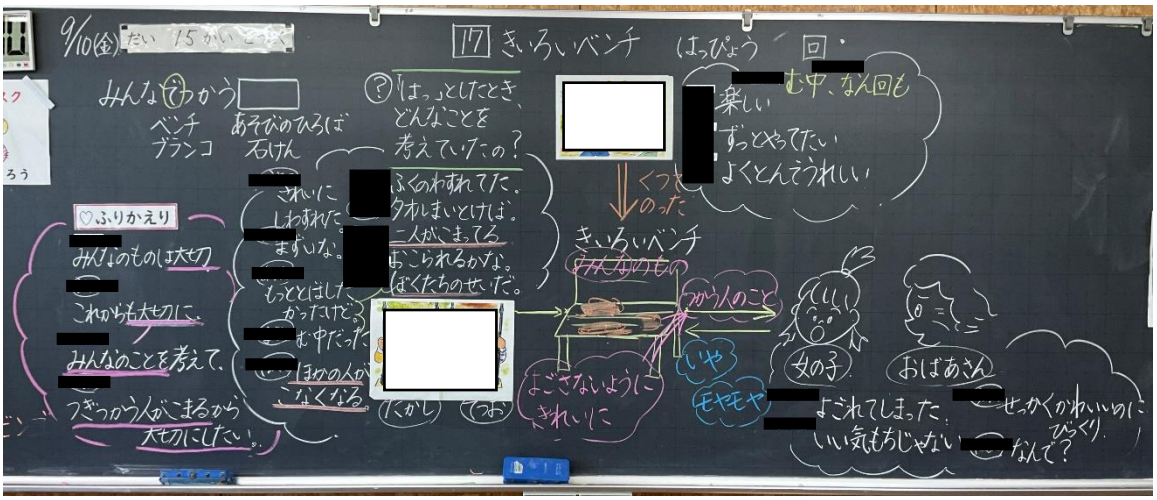
●つるが伸びちゃうのは仕方ないけど、みんなを困らせたらだめだよ。

●自分もわがままをしてしまうことがあるけど、わがままはしてはだめだと思ったよ。

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

2年生は道徳の授業で、「規則の尊重」について考えました。



公園のベンチの上で、紙飛行機を飛ばして遊ぶことに夢中になっているたかしとてつお。楽しさのあまり、ベンチを泥靴で汚してしまう。後からやってきた女の子がベンチに座ると、スカートが汚れて困っている。その様子を見て、二人は「はっ」とし、考え始める。

●はじめは、みんなで使うものはどう使ってもいいと思っていたけれど、これからは大切に使おうと思います。（S）

●みんなのものは、他の人のことも考えて使わないといけないということが分かりました。（H）

●次の人のことだけじゃなくて、もっといろんな人が使うことも考えたいです。（S）

●自分のものの方が大事にしなきゃと思っていたけれど、自分のものも人のものも、みんなのものも大事にしたいです。（Y）

●きまりで決まっていなくても、自分で考えてやらなきゃいけないことが分かりました。（M）

●自分がよくても、他の人がいやな気持ちになることがあることに気付きました。（K）

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

3年生は道徳の授業できちんとした生活（節度・節制）について考えました。

こうすけならだいじょうぶ

犬を飼いたいと言うこうすけは、毎朝おうちの人に起こしてもらわないと起きることができなかった。「こうすけなら犬を飼ってもいい」とおうちの人から信用を得るために、こうすけは少しずつ自分の生活を改めていくという話です。

授業では、こうすけが犬を飼うことに賛成か反対かを話し合いました。そして、自分ははきちんとした生活を送ることができているかを振り返り、自分でやるべきことをしようと考えていました。

さて、その後も、子どもたちは、おうちできちんとした生活を送ることができていますでしょうか。

賛成 ←→ 反対

いつも「おきて。」って言われなきゃおきられないから、犬と朝早くさんぽできないと思います。

さいしょは、朝ねぼうとかしてて反対だったけど、それからは朝六時におきたりしたから賛成の気持ちもあるけど、その先も、早おきがつづけられるか分からないから、半分のところです。

自分のことは自分ですると言っているからです。

ほかの人が犬のさんぽをしているのを見てがんばれると思ったから賛成です。

〈振り返り〉

☆朝のおふとんのかたづけをしようと思ったので、がんばろうと思いました。

☆テレビを見すぎないようにしたいです。

☆早ね早おきをします。

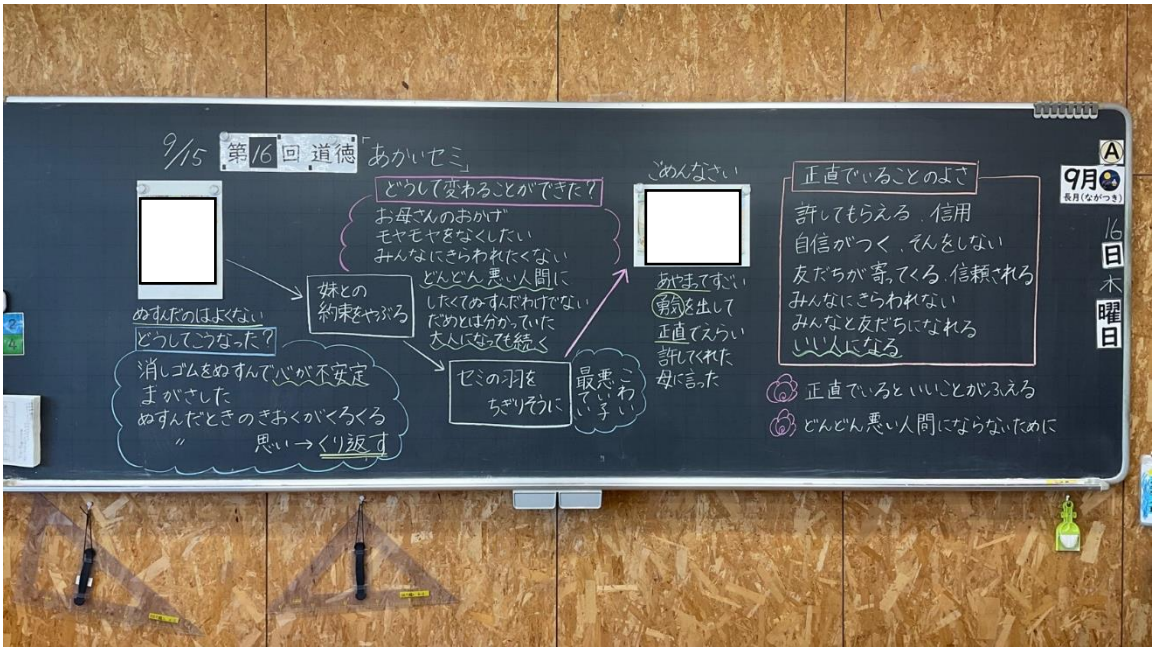
☆いつもゲームをいっぱいしているので、あまりしないようにします。

☆自分のことをかんぺきにできるようにして、ほかの人のお手つだいもできるようになりたいです。

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

4年生は、道徳の授業で正直でいることのよさについて考えました。



主人公のぼくは、消しゴムを盗んでしまい、どんどん自分が悪い人間になることを恐れ、正直に謝りに行くというお話です。

授業では、正直でいることのよさについて、子どもたちが考えを伝え合いました。

●嘘を一回つくと、どんどん悪い人間になると思います。自分に正直でいることで、たくさん発言することができて、周りから信用されるから、小さな事でも自分に嘘をつかないようにしたいです。（S）

●だめだと分かっていても、悪いことをしてしまうこともあると思います。でも、その後に勇気を出して正直に謝れば、いいことが待っていると思いました。（S）

●一つ嘘をつくとそのことが原因で、八つ当たりしたりイライラしたりしてしまうことが分かりました。なので、自分に正直に生きたいです。（I）

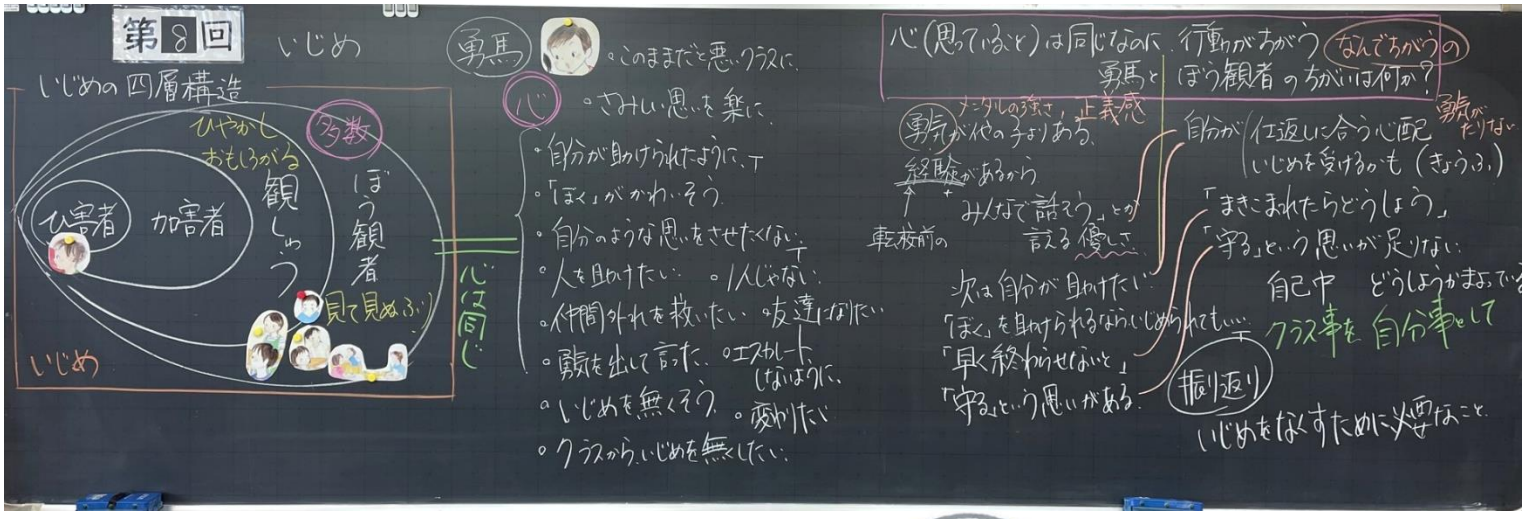
●正直に言えば、たくさんの良いことがあります。正直に言うと、「いい人」になるので、これからも自信をもって正直にしていきたいです。（A）

●悪いことは絶対にしてはいけないけど、もししてしまったら、正直に言いたいです。そうすれば、信用が得られるし、より楽しくなると思いました。（M）

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

５年生は道徳の時間で，「公正，公平」について考えました。「いじめ」がテーマの物語を読んで，私心にとらわれず誰に対しても差別したり偏見を持ったりせず，常に相手の人格を尊重して接することが大事だと気づきました。そして，自分たちの集団でいじめが起きないようにするにはどんな心で生活することが大切か話し合いました。



「ぼく」がはっきりいじめと感じるようになって，仲間はずれにされる日々が続いた９月半ば，勇馬という転校生が学級にやってきた。無視されたり，靴隠しにあったりする「ぼく」を勇馬は支え，励ました。それまで黙っていた人たちが，勇馬の言動から正義の実現に向けて動き出していくという内容である。

授業では，まず初めに，いじめの「四層構造」について理解しました。実際にいじめをしていない「傍観者」という立場の人も，いじめに関係していることに驚いていました。その後，登場人物の心を想像しながら，いじめをなくすためには何が必要なのかというテーマで話し合いました。集団の関係性，いじめを見つけたときに自分にできることをするなど，それぞれが考えていました。

●他の友だちと仲良くすれば良いと思うけど，それでもいじめはなくならないので，いじめている子にしっかりとぶつかって話し合ったり，恐れずに「いじめはダメ！」と言ったりしたいです

●「注意すると，次は自分がいじめられる・・・」と自分の心配ばかりしていないで，「正しいことは正しい，間違っていることは間違っている」と言えるクラスになりたいと思いました。

●もし，いじめが起こったら，私はすすんでいじめられている子に話しかけてあげたいと思いました。また，クラスからいじめをなくすために，みんなが相手の気持ちを考えることと，他人事じゃなくてクラスで起きたことは，みんなが自分事として考えられるようになることが大切だと思いました。

●良いことをすすんでやろうという思いやりの心があるクラスは，いじめが起こりにくいのかなと感じました。

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

6年生は道徳の授業で夢や努力について考えました。夢の舞台へ駆けあがれ！

●できる、できない関係なく、目標を立てて、それに向かって努力することを大事にしたいと思う。

●何事にも全力で取り組もうと思った。ちょっとした事にも全力が出せない人は、何にも全力になれないと思うから。

●夢はかなわなくても、それまでしてきた努力は違う場所でも役に立つということが分かった。自分はそもそも目指す夢がないので、目指す夢を見つけて、それに向けて努力したい。

●夢の大切さについて学んだ。夢は、今回の主人公のように人生を左右するから。

●夢をあきらめないことが大切だと思った。

●ぼくは、今まで夢をあきらめ続けてきたけど、今日からいつもより本気で練習したいと思った。

●ぼくは、これから自分の夢に向かっての目標を少しずつクリアしていきたい。

「ぼく」は野球選手になりたいという夢に向かって困難や挫折に立ち向かいました。夢を実現することはできませんでしたが、清々しい気持ちになり、次の夢に向かって走り出しました。